

大名みえ子です

2015.11.6 No.303
東海村村松 2401-2
電話・fax 029-284-0761

3.11から4年7ヵ月後の福島南相馬市を訪ねて

2015年11月3日(火)



仮設住宅には今も住民が

原
起
門
起
こ
し
た
東
電
は
認
め
な
い
小
高
町
の
水
害
を
引
き
延
び
た



宮田川

逆流を避けるため水門を閉めたときに原発事故に。開放できないまま避難。日本共産党市議と関係者の努力で手動開放に成功



生後10日の赤ちゃんが津波に襲われた家庭の観音像



入り口がとざされたままの小高駅



小高駅に置きっぱなしの駅利用者の自転車。浪江駅も同じです。



原発に未来はなかったことを知った双葉町

双葉町「原子力明るい未来のエネルギー」看板(走行中バス内から)



仮置場建設



除染廃棄物の広大な仮置場



希望の牧場の宣伝カー



牛たちを飼っている。

福1から14キロの場で被曝した売れる牛は1頭もいない。考え抜いた末、牛を殺さず守ることにした吉沢正巳牧場主。

3月12日付の新聞は未配達のまま



原
起
事
故
で
取
り
残
さ
れ
た
約
3
0
0
頭
の
牛
た
ち
を
飼
育
し
て
い
る
牧
場
に
禁
止
区
域
に
あ
る
強
く
立
守
ら
れ
て
い
る



浪江町請戸小。震災発生から1時間後、止まったままの校庭の時計。児童は全員裏手の丘に避難し無事。丘への登り方が解らなかった大人たち。1人の少年が知っていた。

3年で中間貯蔵施設に移すと言われてきた除染廃棄物の仮置場はそのまま、新たな仮置場建設は増える一方。震災復興が進まない現実。原発事故さえなかったら…。伝えきれない福島の悲惨な現実。こんなむごい原発はもう要らない。全てなくしてほしい！